



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology



企画展 Thematic Exhibition

海と日本展

モノからみる東南アジアとオセアニア

Maritime People and Art of Their World:
Material Culture in Southeast Asia and Oceania



2022

9/8 - 12/13 10:00-17:00
木 火 入館は 16:30 まで

休館日：水曜日（ただし、11/23 は開館、翌24日は休館）

会場：国立民族学博物館 本館企画展示場

主催：国立民族学博物館

協力：国立科学博物館、沖縄県立博物館・美術館、沖縄県立埋蔵文化財センター、公益財団法人千里文化財団、NIHU グローバル地域研究プログラム「海域アジア・オセアニア研究」国立民族学博物館拠点

特別協力：船の科学館「海の学び ミュージアムサポート」

後援：日本オセアニア学会、東南アジア考古学会、日本動物考古学会



船の科学館
海の学び
ミュージアム
サポート

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

海と日本
PROJECT

モノからみる東南アジアとオセアニア

東南アジアやオセアニアの海域世界には、海と密接に関わりながら、島や大陸の沿岸部にくらししてきた「海の民」とも呼べる人びとのくらしが営まれてきました。

その長い歴史のなかで日常的に利用され、洗練されてきた様々なモノがあります。たとえば漁具は、島世界にくらす人びとの必需品ですが、そこには海や捕獲対象となる生き物たちと向かい合ってきた人類の知恵と工夫があふれています。舟は海上で人びとの命を守る最も大切なモノともなります。そのため海の民たちは舟や権に彫刻や彩色を施し、美しく装飾してきました。同時に舟は死者や霊を乗せ、この世とあの世をつなぐモノとなることもあります。

海域世界では、人びとが身につける装飾品にも、貝など海から得られる素材が好んで使われてきました。とくにオセアニアでは釣り針や舟の加工具、仮面や貨幣にも様々な貝が利用されてきました。本展では海と島の世界にくらす人びとの多彩なモノたちを通し、そこに認められるアート性や、アジアとオセアニアという地域をこえた共通性について考えます。

展示構成

- 1章 - イン트로ダクション—海の民のくらしと歴史
- 2章 - 漁具からみえる海洋生物とヒト
- 3章 - 貝と装飾品の世界
- 4章 - 舟造りにおけるアートな世界
- 5章 - 海の生物・舟に象徴される人びとの精神世界

関連イベント

*イベントに関する詳細はホームページをご覧ください

◆みんぱくウィークエンド・サロン—研究者と話そう

各日 [時間] 14:30-(開場 14:00-) / [場所] 本館第5セミナー室 / [参加] 申込不要(当日先着順)要展示観覧券 / [定員] 42名

- 9/11(日)「モノが語る海のくらしと人びとの精神世界」[話者] 小野林太郎(本館准教授)
- 10/2(日)「漁具にみるヒトと海の生き物」[話者] 秋道智彌(本館名誉教授)、小野林太郎(本館准教授)
- 11/27(日)「オセアニア展示からみる人類の海洋世界の進出」[話者] 丹羽典生(本館教授)

◆みんぱくセミナー

9/17(土)「モノからみる海のあるくらし—東南アジア・オセアニアの漁具・舟具・装飾品」
[講師] 小野林太郎(本館准教授) / [時間] 13:30-15:00(開場 13:00-) / [場所] みんぱくインテリジェントホール(講堂) / [参加] 事前申込制(先着順)、参加無料 / [定員] 200名

◆ワークショップ

9/18(日)、9/19(月・祝)「海のくらしの手工芸—バンダナスで編むものづくり」
[講師] 小野林太郎(本館准教授)、ピーターJ. マンスン(本館教授)
[指導] 池原 美智子(石垣島 やちむん館工務 館長)、ほか1名
[時間] 午前の部10:30-13:00(受付開始 10:00-)、午後の部14:00-16:30(受付開始13:30-)
[場所] みんぱくインテリジェントホール(講堂)、企画展示場、オセアニア展示場
[参加] 事前申込制(先着順)各回500円、要展示観覧券 / [定員] 各回12名 / [対象] 小学5年生以上

◆友の会講演会

10/23(日)「島世界に進出したサビエンスと海のあるくらし」 **東京会場**
[講師] 藤田祐樹(国立科学博物館研究員)、小野林太郎(本館准教授) / [時間] 13:30-15:00(開場13:00-) / [場所] モンベル御徒町店 4階サロン / [参加] 事前申込制(先着順)、友の会・モンベル会員無料、一般500円 / [定員] 40名

11/5(土)「カヌーとくらし—海に生きるオセアニアの人びと」

[講師] 須藤健一(堺市博物館館長、本館名誉教授) / [時間] 13:30-15:00(開場13:00-) / [場所] 本館第5セミナー室 / [参加] 事前申込制(先着順)、友の会・モンベル会員無料、一般500円 / [定員] 96名
*オンライン配信あり。ただし一般参加は会場のみ。

Maritime People and Art of Their World: Material Culture in Southeast Asia and Oceania

展



[表]

- 風景上=インドネシア 1994年 門田修撮影
- 風景下=バブワニューギニア 2011年 門田修撮影
- 資料左=フルタラ-インデラ舟(模型) マレーシア トンガヌ州
- 資料中=サメ釣り用釣り針 メラネシアソロモン諸島ペロナ島
- 資料右=権 メラネシアソロモン諸島ブーゲンビル島

[裏]

- ① 貝製釣り針(真珠母貝) ミクロネシアカロリン諸島
- ② 権 インドネシア共和国東カリマンタン州
- ③ 貝製首飾り(真珠母貝) ポリネシアソシエテ諸島
- ④ 舟具(シャコガイ) ミクロネシアカロリン諸島
- ⑤ 神像付き椅子 メラネシアバブワニューギニア

国立民族学博物館 National Museum of Ethnology

ご来館のみなさまへ

新型コロナウイルス感染症の状況によっては、会期・イベント等を変更・中止する場合があります。事前にホームページでご確認ください。

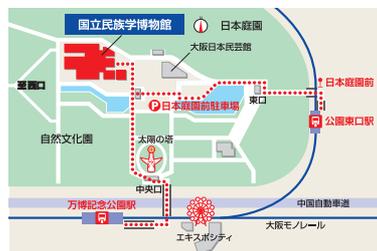
- 開館時間..... 10:00 ~ 17:00(入館は16:30まで)
- 休館日..... 水曜日(ただし、11/23は開館、翌24日は休館)
- 観覧料..... 一般 580円 / 大学生 250円 / 高校生以下 無料
※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

<交通のご案内>

- 大阪モノレール...「万博記念公園駅」、「公園東口駅」下車徒歩約15分
- バス..... 阪急茨木市駅・JR 茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約13分
- 乗用車..... 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分

〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
Tel: 06-6876-2151(代)
Fax: 06-6875-0401
<https://www.minpaku.ac.jp/>

関西から



※大学生・一般の方は万博記念公園各ゲートで、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。
※高校生以下の方、「国立民族学博物館友の会」会員の方は万博記念公園各ゲート有人窓口で、みんぱくへ行くことをお申し出いただき、通行証をお受け取りください。
※万博記念公園をご利用になる場合は、同園入園料が必要です。